2014年9月号



発行 きょうされん千葉支部事務局 広報委員会

2014年8月29日

第37次国会請願行動

5月29日(日)、国会議員会館にて第37次の請願行動が行われました。これまでの活動で集まった3,000筆余りの署名を携え、千葉支部を代表して5名が国会へ赴きました。今回は、42の都道府県から450名の参加がありました。

権利条約に沿った福祉に変えてほしい

私が所属するトライアングル西千葉と、あやめさんとで、職員・利用者さん含め5名で国会請願行動に参加しました。

請願署名を国会で取り上げてもらうため、千葉県選出の国会議員に紹介議員になっていただけるようお願いに回ってきました。

お一人だけ議員さんに直接お会いできましたが、殆どの方が議員会館 にはおりませんで、秘書の方にお願いをしてきました。

障害者権利条約を日本は批准したわけなので、是非とも権利条約に 沿った障害者の福祉に変えていってほしい、骨格提言に示された障害 者福祉は原則無料に、障害者本人の65歳からの介護保険への移行はや めてほしいことなど多くの当事者と家族の願いを伝えてきました。

ただ、議員会館の受付の段階で話も聞かずにお断りと言ってきた議員もお一人だけおり、「地元千葉からこういう人を選出したのか」と、一緒に行った仲間からも非常に残念だという声も上がりました。私も全くもって同感です…。

しかし、こういう運動を継続して行うことが、福祉を少しずつ良い方向に変えていくことに繋がると思っています。

組織・運動委員会 浜畑 力也



国会請願へ初めて参加しました。党派の方針や各議員さんの考え方により、理解してもらうことの難しさや法律にしてもらうまでの大変さを改めて知りました。

日々の生活においても、解り やすい表現をするよう気をつ けねば、と痛感しました。

- トライアングル西千葉 利用者 一第37次国会請願に参加して

第38次国会請願行動 に向けて

千葉支部では、12月より第38次の国会請願署名・募金運動の取り 組みを始めます。

署名8,000筆、募金15万円を目標に掲げ、前年度よりもさらに活発な働きかけを行います。会員の皆様におかれましても、より一層のご協力をお願い致します。





STOP! 精神科病棟転換型居住系施設!!

6.26緊急集会

6月26日(木)、精神科病棟を居住系施設に 転換しようとする動きに反対する集会が、 日比谷野外音楽堂で開かれました。

千葉からは20名程が参加。全国から総勢 3200人が集い、熱気みなぎる集会となりま した。

日本でも批准したばかりの「障害者権利 条約」に違反することにもなるこの施策の 検討を止めさせ、誰もが普通に暮らせるこ とができるよう、参加者一同で確認し合い ました。



生病院生活はいやです!」

トライアングル西千葉では、利用者5名と職員2名で参加しま した。

「この制度はやめてください!」 「一生病院生活はいやです!」

20年から30年に及ぶ病院生活を送る当事者の方、現場の看護 師さん、医師、ご家族からこのような訴えがありました。

また、社会へ自立した方からは、

「買い物ができる!」 「自由にお風呂に入れる!」 「地域の人たちと暮らせる!」

との声が上がりました。

とても暑い一日で日焼けして帰ってくると、仕事を終えた仲 間に会って「ごくろうさん!」と声を掛けてもらい、ホッと ました。

朝のドラマでは毎回「ごきげんよう」と言っていますが、ま だまだそんな社会ではありません。また明日からもがんばろ うと思いました。

利用者の皆さん、ありがとうございました。

組織・運動委員会 福井 良子 🥟





~みんなの声をとどけます~

- 6.26集会に参加しての感想 をお聞きしました

- ●今まできょうされんという組 織を知りませんでした。もっ と知りたい
- ●マスコミで障害者の政策を もっと知らせてください
- ●仲間ともっと交流し、協力し 合いたい
- ●仕事と運動は一緒だよ



きょうされん千葉支部 障害者の支援・発達保障講座

「てんかんのある人の生活と支援を考える」

6月22日(日)、全国障害者問題研究会(全障研)千葉支部ときょうされん千葉支部共催の学習会が、サンロード津田沼にて開催されました。

講師に千葉県リハビリテーションセンター小児科の永沢佳澄医師を迎え、「てんかん」についての基本的な知 識、発作時の対応など、多くの事柄をわかりやすくお話くださいました。

講座の内容を要約してご紹介します。

「てんかん」は脳の病気

てんかんはおよそ100人に1人程度の割合で発症するありふれた病気であり、日本全国には100万人以上の患者 さんがいると言われる。発作の程度や症状は人それぞれである。

てんかんの発作とは

脳の神経細胞は放電する。脳は大脳の神経細胞が出した電気信号を検査する。脳と体は脊髄を通してつながっていて電気信号が伝わることで動かすことができる。神経細胞が異常に興奮し、過剰な放電をする箇所を「焦点」と呼ぶ。焦点の異常な興奮が周囲に伝わったり、脳全体が一斉に異常な放電を始めることがある。その結果、必要な情報が途絶えたり、不必要な命令が出たりする。このようなときに、体の一部が意図していないのに動いたり、意識が途切れたりする。これをてんかんの発作という。

てんかん発作で大切なこと

てんかん発作に気付くためには、発作を知ることと観察が大切。発作がどんなときに起こったか、持続時間は どのくらいか、顔色はどうだったか、発作の始まりはどんな様子だったか等の観察・記録をしてドクターに伝 えるとよい。特に発作の始まりについての情報は、薬の方針に関わる大切な情報である。

発作を起こさないように

- 薬を飲み忘れないようにすること
- 規則正しい生活をすること(過労や睡眠不足は大敵)
- 発作の誘因となるような刺激を避けること(過度のアルコール摂取、点滅する強い光、大きな音)
- できるだけ一人にならないこと
- 入浴時に音がしなくなったら様子を見に行く
- 過度に神経質にならないで接すること

発作時の対応

- 意識障害を伴う場合は、安全な場所で楽な姿勢を取らせる
- 舌を噛む可能性はあるが、タオルを詰めたり、割り箸を噛ませたり するのは危険
- ■吐する人がいるので、吐物が気道に詰まらないような姿勢を取らせる
- 一旦発作が止まったように見えても、意識が回復しないうちにまた 発作が起こる場合は発作が続いている可能性がある

SHE CONTINUEND

『知っておきたい「てんかん の発作」一アニメとイラスト でわかるてんかんのすべて』

> 久保田有一【著】 価格 2,484円(税込) アーク出版



きょうされん千葉支部 障害者の支援・発達保障講座

「グループホーム・ケアホームの運営と実践について考える」

7月6日(日)、全国障害者問題研究 会(全障研)千葉支部ときょうされ ん千葉支部共催の学習会が、千葉 市教育会館にて開催されました。

講師には、きょうされん東京支部 の社会福祉法人イリアンス「のぞ みの家」施設長で、きょうされん 全国理事も務めている磯部光孝氏 を迎え、「どんなに障害が重くて も地域で暮らす」をテーマに、自 施設での実践を交えてお話いただ きました。講座の内容を要約して ご紹介します。



講演を行なう磯部光孝氏

障害者権利条約の批准

障害者権利条約を批准したことで、一つの指標が出来た。これにより、障害者の支援のあり方が国 際基準で見られるようになった。特に生活に関することでは、「第十九条 自立した生活及び地域社 会への包容」がある。これは障害者が健常者と同じように地域での暮らしを選ぶ権利を持っている ということであり、そこを目指していかなければいけない。

一方で、「病院のベッドがグループホームに」という精神科病棟の居住転換問題がある。これは精 神障害の分野のみならず、知的障害や身体障害など全ての障害者に関わる。障害者は入所施設に行 けばいいということになってしまうきっかけにもなり得る。

「親よりも早く亡くなった娘は親孝行」

1999年11月、東久留米市第一号の生活寮を開設。2001年12月、入所者の一人が亡くなり、その親 から「親よりも早く亡くなった娘は親孝行」と言われた。つい最近までそういった考え方があっ た。これまで国際障害者デーなど様々な動きがあって、日本でも障害者福祉が豊かになったのかと 思っていたが、根幹の部分では親の大変さなどあった。親元から離れて生活する場が無ければ何も 変わらない。支援を受けて自立生活を受けられる仕組みが必要。障害が重く多くの支援が必要な方 でも親元から離れられる形を作っていかなければ、と考えた。

障害のある人が暮らす場だからこそ、ゆとりのある環境を

2004年4月、街の中で、通所施設と離れた場所の借地を利用してグルースホームを二棟建設した。 しっかりと整えた住環境を提供することが、利用者にとってとても良いことであるし、支援する側 にとっても支援がしやすくなる。後々の事を考えたときに環境には金をかけた方がいい。

家賃45,000円を軸に資金計画を立てた。法人からの持ち出しはほとんど無くし、東京都からの補助 金と利用者の家賃でグルースホームを建設出来るようにした。そうすれば、土地が見つかれば次か ら次へと建てられる。寄付金で自己資金800万円を用意した。次を見越して法人の体力を温存した。

東京都の補助金は「月額払い」。「暮らしに日払いはおかしいだろう」というのが東京都の見解。 千葉県でもぜひ取り入れてもらったらどうか。

日中活動の支援と暮らしの支援

家族以外の人たちと暮らすこと 家族はスタッフにパトンタッチ ければいけない。家族は、ス で、家族との暮らしも楽しく

家庭と日中活動の場を行き来し ていたある利用者は、母親との 関係があまり良くなかったが、 グループホームに入り家族以外 の人たちと暮らすことで、家族 との暮らしも楽しくなったとい う事例がある。

することから見守りに

また、ある事例では家庭・日中 活動・グループホームの三つの 環境で暮らしていた利用者が、 親が亡くなった後精神的に落ち 着かなくなってしまった。いろ いろな関わり合いの場を増やし ておかないと、柱が折れた時に どう支えるのか、考えていかな タッフにパトンタッチすること から見守りに。

自分の家に帰りたい

多様な暮らしを目指して、こだ わりなどを踏まえた生きざまな ど、いろいろな暮らしの在り方 を通して、あらためて「自分の 家に帰りたい」という声。

家族支援から社会が支えていく仕組みを作るために

グルースホームはひとつの通過 の過ごし方にも対応できるよう

一人ひとり違う暮らしの支援。 グループホームに入ってからど のような人生を送るのか。色ん な在り方があっていいし、グ ルースホームはひとつの通過 点。サテライトを使うことによ り、一人の暮らしを支援する。

週末に実家へ帰る仕組みから 365日を支えていくために

365日利用の方が毎年増えてき ている。週末に実家へ帰る仕組 みから365日の対応へ。職員も いつも一緒というわけにはいか ないので、移動支援を使いなが ら買い物に行くなどしている。 暮らしを支えていくのはグルー スホームだけではなく、色々な サービスを使っていかないと 365日の対応はなかなか難し 110

スタッフの配置

365日の対応では、スタッフの 配置が問題になる。職員がなる べく夜勤にならないよう夜間は 職員2名のところを1名にし、代 わりにパートやアルパイトを入 れている。職員はその分を土日

に。暮らしの場が変わると利用 者も始めは落ち着かないが、一 定程度暮らし方が見えてくれば 障害が重くても生活が安定して くる。寝付くまでは職員で対応 するが、夜間はアルパイトに対 応してもらっている。また、必 ずフリーの職員を置き、何かあ ればすぐ相談できる、組織的な 対応ができる体制を整えた。

スタッフと離れられない利用者

発達障害のある利用者は幼い頃 に親を亡くし、親を求めて職員 に依存して離れられなくなって しまった。障害への理解を深め るとともに、ルールを決めてい かないと職員と依存関係が強く なり、孤立する。女性の利用者 の場合、職員への依存傾向が強 い。女性の支援は丁寧に。職員 には仕事とプライベートをしっ かり分けるようにと伝えてい

親御さんの思いをよく知ってほ

親御さんはどんな思いで彼・彼 女達を育ててきたのかをよく 知ってほしい。ただ生活を支え

ていくだけではなく、「人生を 支えていく」という視点がない と、支援者として何のために やっているのかが見えない。

成年後見制度とエンディング ノート

親亡き後の対応、遺産相続や遺 言書など、状況に応じて成年後 見制度を活用する。事業所とし ては、どういう思いで支援をし てほしいか、エンディングノー トを作ってほしいとお願いして いる。

一人ひとりの暮らしを丁寧に作 り上げていく

どういう暮らしがその人にとっ ていいかを考えた時に、ひとつ の選択肢としてこのグルース ホームがあり、他にもし良い施 設があれば一緒に探していこう という考えでやっている。一人 ひとりの暮らしを丁寧に作り上 げていくという姿勢を最後まで 持ち続けていく。



地域活動支援センターⅢ型 わーくす結

千葉支部会員の施設へ 事務局員が訪問し、施 設のいろんな話を伺い ます。

第二回目は、木更津市 で活動している「わー くす結」さんへお邪魔 しました。

特定非営利活動法人 やさしねっと結

〒292-0825

木更津市畑沢2-36-3 TEL: 0438-36-0292

URL: http://www.npoyui.org/

「働く」ことを通じて、障害者も健常者 も認め合い、成長し合える地域社会を創 りたいと活動。生活支援・就労支援のみ ならず、広報誌を発行して障害者への理 解を深めるための啓発活動も行なう。



「やさしねっと結」理事長の末廣博美さんと理事の重田美幸さんにお話を伺いました。

「自分たちで何かやらなきゃ」

重田美幸さん(以下、重田):私自身、知的障害とてんかんを持つ子の母親で、今から10年ほど前、子供が高等部に通っている頃、高校卒業後にどんなことができるか、自分ができることはないかと考えていた。その時ちょうど子供が通っていたハンディキャップのある人のための学習塾で、子供たちが授業を受けている間に親同士の交流や悩み相談をする場所があった。その中で相談をしたりお母さん同士のつきあいの中で、「自分たちで何かやらなきゃ」という思いになった。親だけの集団ではなかなか難しいこともあるため、子供が小さい頃からサポートしてくれていた学習塾の先生や特別支援学校の先生、友人など10人ほどが集まって、2005年にNPO法人を立ち上げた。企業の新しい社屋の一室をご好意で貸していただいて、仕事もいただいたり、畑を貸してもらったり、たくさんの人たちが力を貸してくれた。

フットワークを軽く

末廣博美さん(以下、末廣):小さい団体なので、フットワークを軽く。おでかけにしても調理実習に しても、すべてこちらで決めるのではなく、みんなの意見を聞いて、融通を効かせながら活動している。

多彩な仕事内容

未廣:午前は外での作業をしている。「クリーンアップお仕事隊」という、契約者さんのお宅の草取り、室内清掃や、木更津市の市営霊園のトイレ清掃、宅配野菜の収穫など。午後の室内作業では、年間通 した作業としてゲームセンターのくじ引き作りや、やさしねっと結の理事が経営している会社からいただいている作業などがある。調理実習では、材料も自分たちで切るところから行なっている。

地域格差

重田:木更津市に対して家賃補助と重度障害者加算をしてもらうよう言ったが、木更津市ではやりませんと言われた。また、利用者の交通費の助成が全く無い。

末廣:送迎加算は少しある。送迎バスがあれば、利用者さんももう少し増えるかもしれないが。

地域の交流

未廣:木更津市に日中活動連絡会というものがあり、その中で市内の他施設と交流がある。以前は、地域作業所hanaさんの仕事を手伝ったこともある。

やさしねっと結の今後

未廣:利用者さんが増えて、職員も増えればいろんなことが出来るが、元々はみんなのスキルアップを 目指してやってきたので本未転倒にならないように。みんなが明るい笑顔で毎日暮らせたらいい。

一「結ぶ・輪になる・優しい手」。わ一くす結さんのキャッチフレーズです。お二人の話を振り返ってみて、とてもぴったりなフレーズだと思いました。

わーくす結の皆さん、お忙しい中、どうもありがとうございました。

活動内容の紹介



言語障害児用の教材本に付録のCD を貼り付ける作業を見学。 この道具は、受注元の社員が「結さんのために」と作ってくれたそう。

他の作業においても、誰でも簡単に間違いなく作業が出来るようにと、 様々な工夫を盛り込んだ専用の道具 がいくつも用意されている。



畑で収穫した無農薬野菜は、その日のうちに契約者さんのお宅へ配達。 この日穫れた野菜はきゅうり、ピーマン、ししとう、ミニトマト、いんげん、なすと多彩。



ほんの数秒で所定の位置にCDが貼り付けられた



Schedule

運営委員会

社会福祉法人つくばね会 けやき社会センターにて開催

9月25日(木) 事務局会議

NPO法人トライアングル西千葉にて開催

10月23日(木) 事務局会議

NPO法人トライアングル西千葉にて開催

11月16日(日) 運営委員会

Activity

<研修委員会>

「小規模作業所・地域活動支援センター問題」をテーマとする学習会を 秋以降に開催します。

詳細は改めてお知らせ致します。

<組織・運動委員会>

社会福祉法人つどいの「ここすも」さんが千葉支部の会員に加わりました。

この数年、スマートフォンでウェブメ ディアのニュースやコラムを読むことが多くなりました。その中で、面白い記事 がありました。

「同じ情報を紙媒体とディスプレイでそ れぞれ見た時、どちらがより理解できる かし

ある会社が調査し、発表したという記事 です。

実験の結果、ディスプレイより紙媒体の 方が情報を理解しやすいことが判明した そうです。そんな調査を印刷会社が実施 したというのですから、さらに面白い。

紙媒体もウェブメディアもそれぞれ強み があると思います。広報の仕事をしてい る身としては、双方の強みをよく理解 し、両者をバランスよく取り入れられた らと思います。

(広報委員会 並末)

"障害のある仲間たちの応援団"とは、きょうされ ん賛助会員の皆さんです。

長年応援してくださっている方、新しく応援団に加 わった方、たくさんの方がいらっしゃいます。お知

り合いの方や地域の皆さんにも賛助会員に入会して いただき、みんなで障害のある仲間たちを応援して いきましょう。

詳しくは千葉支部事務局へお問い合わせください。

きょうされん千葉支部会報「干の葉通信」をお読みいただき、ありがとうございまとしたなことを思いましたか?皆さんが思ったこと、考えたことをお聞かせください。皆さんの"言の集界"を大きない。 に活かしたいと思います。

メールでお寄せください

E-Mail: koto-no-ha@kyousaren-chiba.com



お問い合わせ先

お気軽にお問い合わせください。

きょうされん千葉支部

〒263-0043

千葉市稲毛区小仲台2-6-1 京成稲毛ビル205号 トライアングル西千葉内

TEL: 043-206-7101 FAX: 043-207-7153 E-Mail: contact@kvousaren-chiba.com Web: www.kyousaren-chiba.com

